従業者向け

児童発達支援評価表

○ 本評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所に従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。
「はい」又は「いいえ」のどちらかに〇を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14	4	荷物などで狭いと感じることがある。 動きのある子供が制限されることも時折みられる。 動きが激しい児も多く、臥床している児との区分けが難しい。 →利用児童の状況に応じて対応を検討していく	特性や活動内容に応じて環境調整を行い、安全かつ安心して過ごせる空間づくりに努めている。また、利用状況に応じた人員配置を行い、個別性に配慮した支援体制を整えている。	現在の環境整備に加え、こどもの特性に応じた空間の使い分けや動線の工夫について、さらなる改善が必要であると考えられる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	15	3	日によって差があると感じている。 職員欠員の際、補充されないこともある。 重症児もいるが、職員の一数は手厚いと思う。 →配置基準を満たし利用人数に応じた人員配置をしている。欠員時は状況に応じて補充をしていく		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	14	2	バリアフリーはある程度あるが、障害の特性の幅が大きい。職員 の努力で配慮の工夫がある。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	16	2	清掃や消毒などがしっかり行われている。 １に同じ。 消毒、片付けを心がけている。工夫して努力している。		
業務改善	5	業務改善を進めるための PDCA サイクル (目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	17	1	職員が積極的に声をあげていて話をしているが、振り返り不足も ある →日々のミーティングや全体ミーティングにて情報共有をして	ミーティングや日々の業務の中で職員間の情報共有を行い、業務改善に取り組んでいる。また、保護者や職員の意見を把握する機会を設けている。	振り返りや情報共有の機会について、より確実に実施できる体制づくりや、外部評価の活用について検討が必要であると考えられる。
	6	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16	2	きちんとした職員全体の話し合いはしていない。 →ミーティングの中で業務改善に努めていく		
	7	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	18	0	全体ミーティングの中で協議し業務改善に努める		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12	6	外部評価は行っていない		
	9	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15	3	定期的な研修を行い、スキルアップをはかっていく 次年度は毎月開催予定	法人内研修や外部研修への参加機会を設け、職員の専門性向上に努めている。	研修内容の実践への落とし込みや、継続的なスキル向上につなげる仕組みづくりが必要であると考えられる。
適切な支援の提供	10	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	17	1	自己評価の公表をしている。	アセスメントに基づき、こどもや保護者のニーズを踏まえた支援計画を作成し、職員間で共有しながら支援を行っている。	アセスメントの精度や支援内容の共有について、さらなる向上が必要であると考えられる。
	11	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	17	1	面談を定期的に行い、ニーズと課題を抽出し分析したうえで、個別支援計画の立案をしている		
	12	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	17	1	急な利用開始は共通理解が難しいと感じる。 自発管中心に職員の声は届いていると思う。共有された内容を理解できる努力が必要。		
	13	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	17	1	計画に沿った支援を意識して接するという共通認識を持ちたい。		
	14	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15	3	子ども一人一人がどういう児かという医療的アセスメント共有の 努力が必要 →支援会議や研修会を行い情報共有をはかり。		
	15	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	18	0	支援計画は個別性があり、設定されていると思う。計画を基に実行する支援法の共有をレベルアップがしたい。 →本人支援・家族支援を主な軸として、個別的に支援を計画している		
	16	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	18	0	保育チームが主体となっている。今年は重症児に対する個別性を 看護チームも考えていきたい。	こどもの発達や興味に応じた活動を取り入れ、個別活動と集団活動を組み合わせながら、活動が固定化しないよう工夫している。	活動内容のさらなる充実や、こどもの主体性・自己選択を促す支援の強化が必要であると考えられる。
	17	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	18	0	季節に応じたプログラムを行っている。		
	18	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	16	2	全体ミーティングや支援会議を通して	支援前後の情報共有や記録の作成を行い、支援の継続	打ち合わせや振り返りの実施状況にばらつきがあるた

	19	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	7	必ずとは言えない。もっと話し合いの機会があるとよいと思う。 話し合いの時間がなかなか持てないが、支援（活動計画書）等で共有できつつある	性を保つよう努めている。	め、確実に実施できる体制づくりと、記録を支援改善に活かす仕組みの強化が必要であると考えられる
	20	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	11	7	気が付いた点の共有は朝礼で行われている。		
	21	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	16	2	徹底していない。日々の支援に関してはもって話し合ってもいいのではないか。記録は取っているが、改善に繋げているか疑問。 保護者向けの記録はとてもよいと思うが、職員向けのものは改善・改良がほしい。		
	22	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17	1	面談や話し合いの機会は増えつつある。職員の関心は高い。		
関係機関や保護者との連携	23	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	17	1	担当者が参加している。		
	24	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	16	2	指示書や一部の児は医師との連絡を取っている。		
	25	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	3	乳幼児が多いので、情報共有は必要。保育園移行や他事業所も併用している児も多いので、共有していきたい。	関係機関や保育園と情報共有を行い、こどもの状況に応じた支援に努めている。	連携の頻度や内容について、より一層の強化と体系化が必要であると考えられる。
	26	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	3	主に保護者からの情報に頼っている		
	27	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	2	16			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	15	3	少ないと感じているため、もっと増やしていいと思う。 保育園や図書館スペース等に行っている。		
	29	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	18	0	送迎やお迎え時になるべく話すことを職員が心がけていると思う		
		運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	17	1	保護者とのやり取りは丁寧に行う姿勢をとっている。		
保護者への説明等	30	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	18	0	面談を行っている。	日常的な情報共有や面談を通して、保護者との信頼関係の構築に努めている。	相談支援や情報提供について、さらに充実した対応ができるよう体制強化が必要であると考えられる。
	31	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	18	0			
		定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	18	0		日常の関わりや面談を通し	相談の機会をより充実させ
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	17	1		保護者会やイベント等を通して交流の機会を設けている。	より参加しやすい形での交流機会の設定や継続的な実施が必要であると考えられる。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	17	1	努力姿勢はあるが不十分。	日常の関わりや面談を通して、保護者からの相談に適切に応じ、子育てに関する助言や支援を行うよう努めている。	相談の機会をより充実させるとともに、相談しやすい環境づくりや継続的な支援体制の強化が必要であると考えられる。
		定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	17	1		通信やSNS等を活用し情報発信を行うとともに、個人情報の適切な管理に努めている。	情報発信の方法や内容について、より分かりやすく効果的なものへと改善が必要であると考えられる。
	34	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	17	1			
		障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	18	0	子ども一人一人の個別性を理解して接していければもっと向上する。	こどもや保護者一人ひとりの特性や理解力に応じて、言葉かけや視覚的支援等の工夫を行い、意思疎通や情報伝達が円滑に行えるよう配慮している。	個々の特性に応じた伝達方法について、さらなる工夫や職員間での共有を進め、より分かりやすく伝えられる支援体制の強化が必要であると考えられる。
	35	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	13	5	あまりないと感じている。 これから行っていけたらいいと思う。	地域との関わりを意識し、事業所内でのイベントや外出活動等を通して、こどもが地域と接する機会を設けるよう努めている。	地域住民との交流機会については限定的であるため、今後は感染症の状況等にも配慮しながら、無理のない形で地域に開かれた取組の充実を図る必要があると考えられる。
	36	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	18	0		事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対策等の各種マニュアルを整備し、職員への周知を行うとともに、訓練を通して対応力の向上に努めている。	マニュアルの内容について、より実践に即したものとなるよう見直しを行うとともに、定期的な訓練の充実を図り、職員の対応力向上をさらに強化していく必要があると考えられる。
	37	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	18	0		業務継続計画（BCP）を策	訓練内容について、より実
		予防接種状況を把握しているか。	17	1	予防接種未はぜひやるべき。	服薬状況や既往歴、てんか	健康情報の共有方法につい

非常時等の対応	38	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	17	1		医師の指示書に基づき、食物アレルギーのあるこどもに対して適切な対応を行い、安全管理の徹底に努めている。	アレルギー対応について、職員間での理解の統一や確認体制の強化を図り、より確実な安全管理につなげていく必要があると考えられる。
	39	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15	3	色々な災害を想定した訓練をしている。	安全計画を作成し、必要な研修や訓練を実施することで、安全管理の徹底に努めている。また、日々の支援においてもリスクを想定しながら安全に配慮した支援を行っている。	安全管理に関する取組について、より実践的な内容へと充実させるとともに、職員一人ひとりの危機意識の向上につなげていく必要があると考えられる。
		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	17	1		安全計画に基づく取組内容について、保護者へ情報共有を行い、こどもの安全確保に向けた連携に努めている。	安全に関する情報提供について、より分かりやすく丁寧な周知方法の工夫や、継続的な情報共有の強化が必要であると考えられる。
	40	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	18	0	インシデントレポートを積極的に出す傾向になっている。	ヒヤリハット事例を職員間で共有し、再発防止に向けた検討を行うことで、安全意識の向上に努めている。	ヒヤリハットの活用について、より具体的な再発防止策の徹底や、全職員への共有の強化が必要であると考えられる。
	41	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	18	0	さらに理解する場を作る。	虐待防止に関する研修の機会を設け、職員の意識向上と適切な対応の徹底に努めている。	虐待防止について、継続的な研修の実施とともに、職員間での理解の統一や日常的な意識づけの強化が必要であると考えられる。
	42	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	18	0	同上	身体拘束が必要となる場合については、組織的に判断し、事前に保護者へ説明し同意を得たうえで、個別支援計画に記載する等、適切な対応に努めている。	身体拘束に関する判断基準や対応について、職員間での共通理解をさらに深め、適切な運用の徹底を図る必要があると考えられる。